

# 特別支援教育便り



H31.3.22(金) 文責 中山 幸江

菜の花が咲き、春の日差しが感じられる季節となりました。今年度も、特別支援教育にご理解とご協力をいただき、有難うございました。特別支援学級の生徒は、特別支援学級と交流学級で充実した授業を受けることができます。すべての生徒がそうあるべく、来年度も特別支援教育の充実を図っていきたいと思う次第です。そこで、今回は、4月の進級に向けて、「巡回相談」「通級指導教室」について紹介します。



畑で収穫したさつまいもを全校生徒に

ふるまう「さつまいもパーティー」の様子

## 「巡回相談」について

芦屋中学校では、年に6回の巡回相談が行われています。「巡回相談」では、特別支援教育の専門家の方のアドバイスを受けることができます。保護者相談は30分～1時間で設定されます。短時間ですが、事前に担当教員が相談の旨を専門家に伝え、相談では効果的な支援の方法のアドバイスを受け、有意義な時間となっているようです。そこで専門家の先生がよく話されている内容を一部紹介します。

### ①子どもに期待してあげましょう

⇒ピグマリオン効果：期待するだけで人間は成長するものです

### ②きちんと伝えましょう

⇒伝えつつもりはお用心、きちんと伝える意識をしっかりと持ちましょう！

きちんと伝える（指示）とは・・・

まず名前を呼んだり、肩や手にさわったりして、こちらに注意を向けさせましょう。そして、簡潔な言葉で、ストレートな表現をするよう努めます。「何時だと思っているの？」という遠回しな表現や、「静かにしなさい。」というあいまいな表現では、理解しにくいときがあるからです。指示は具体的に、例えば、「〇時ですよ。」とか、「口を閉じなさい。」というようにします。また、聞くだけでは情報を受け取りにくい子どももいますので、絵カードや写真、現物などを見せるのも効果的です。

### ③肯定的な伝え方をしよう！

⇒制止・禁止よりは、して欲しいことをしっかりとルール化してください。

⇒「廊下は走らない」と「廊下はゆっくり歩こう」の違いはとても大きい。

### ④脅さないでください

⇒脅すのもありますが、嫌味で終わらず、評価で終わってください。

⇒脅すよりは「早くゲームしたら？」と言った方がやる気は上昇します。

### ⑤支援の一番簡単な枠組みは、「指示⇒遂行⇒評価」だと思います。

させる（遂行）工夫例

◆最初はスモールステップでの取り組みで、得意なものから始めさせます。

◆モデルを示したり手伝ってあげたりしてさせ、「出来た結果」をつくります。

◆回避に対する対応は決めておきます。（逃さない対応が理想ですが、無理やりはダメです）

## 「通級指導教室」について

芦屋中学校では、中学校生活をよりよく、スムーズに送るためのスキルを身につけたり学習したりするための教室として、「通級指導教室」があります。また、授業や学習に関して悩みを持っている生徒に対して、将来の進路に向けて必要なスキルを身につけたり学習したりする場所として「通級指導教室」があります。進級の前に、生活や学習についての相談があれば、ぜひ、担任の先生や周りの先生、特別支援コーディネーターに相談してみてください。

早いもので、1年生は中学校生活の1年間が終わり、2年生は中学校生活も折り返し地点が過ぎ、義務教育最後の1年となります。中学校生活を送っていて、次のようなことを感じる人はいませんか。

また、お子様がこのようなことで悩んでいるのを感じることはありませんか？

☆ 同じような場面で何度も「うまくいかないなあ」ということがある人

☆ 努力をしているのに、「なかなか身につかないなあ」という思いをずっと持っている人

手順を踏み、個別に対応することで、きめ細かな指導ができます。



子どもにはそれぞれのよさがあります！



落ち着いた環境で学習できます。

パソコンも設置されています。